

BI-CAMPEÃ

皆様、こんにちは。そろそろ浅草サンバカーニバルへ向けて動き出しているところでしょうか。こちらはというと、不思議なもので、ひと月前まであった carnaval が遠い遠い過去の出来事のように思えてなりません。昨年ブラジルに来た当時はこの休止の期間が僕にとって大きなストレスになりましたが、ブラジルの生活に溶け込んでいる今、この期間の意味がよくわかりました。「sambaはしばらくいい...」という感覚すらあります。しかし、それが次のシーズンを迎えるまでのエネルギーの蓄積にもなるのだと感じています。もちろん皆様への報告は続けていきますよー。ということで、今回は Império de Casa Verde がチャンピオンとなった日のこと、そしてその後の出来事をお伝えしたいと思います。



採点に関して

São Paulo では「LIGA」という組織の元で、全 10 項目（各 3 名の審査員）の採点が行われます。各項目に細かい審査基準があり、審査員はその基準に則りながら 10 点満点の評価を下します。通常、各 escola のパレードが終わるとその場で採点を提出することになるのですが、今年は「書き直し」の制度を導入したそうです。確かに全体の比較という面では有効かもしれませんが、Rio de Janeiro との違いは「Conjunto」という項目がなく「Melodia」という項目があること、得点の単位、審査員の人数などいくつかありますが、大きな違いはありません。あまりご存知のない方のために以下に採点対象の 10 項目をあげておきます。

Comissão de frente (コミサオン・ヂ・フレンチ) **Bateria** (バテリア) **Letras do samba** (歌詞) **Mestre-Sala e Porta-Bandeira** (メストリ・サラ & ポルタ・バンデイラ) **Harmonia** (ハーモニー) **Alegoria e Adereços** (山車・装飾) **Evolução** (盛り上がり) **Enredo** (テーマ) **Fantasia** (衣装) **Melodia** (メロディー)
Liberdade の HP に Rio de Janeiro の採点の詳細が掲載されています。

息の詰まる結果発表

carnaval の結果発表は sambódromo の特設会場で行われます。僕は diretor 陣と共に quadra に集まり、テレビ中継を通して結果を知ることになりました。皆、先日の desfile を無事終えて、ホッととしている顔つきなのですが、どこかソワソワしているのが伝わってきます。quadra のステージの上に 1 台のテレビが設置され、人も増えてきたところに採点発表がスタートしました。10 の項目ごとに、3 名の審査員、16 の escola が一つ一つの発表されるので、なんと計 480 もの点数がじれったく中継されるわけです。その間に一喜一憂しなければならぬこちらの立場からすると、かなり息が詰まります。「Império de Casa Verde...Nota 10 (10 点満点) ...」というアナウンスが流れると、その度に歓喜が巻き起こりますが、「Nota 9.75」の言葉がアナウンスされると意気消沈の音が響き渡ります。そして「Nota 9.50」なんて発表されたときには大ブーイングと悲壮の声。昨年優勝していて、なおかつ今年の出来もよかった分、常に満点でなくてはならないというプレッシャーを感じざるを得ないんです。最初の 3 項目がすべて発表されたとき Império は全体で 6 位...。quadra 内になんともいえぬ空気が漂いはじめていました。が、もちろん誰もネガティブなことは口にしません。発表が中盤になると、だんだん追いつけてきました。しかし、仮に Império が 10 点満点でも、上位に残る他の escola がそれ未満でなければ、追いつくことはできません。ですので、それらの escola の発表時には上述の逆の反応が起こるわけです。とにかく一喜一憂なんです...

チャンピオンとなった瞬間

さてさて発表終盤、Mocidade Alegre をぎりぎり追い越し Vai Vai と同時 1 位に並びました。そして次は「Bateria」の項目でしたが、僕はこのあたりで、切迫した comunidade の瞬間を写真に残しておこうと、1 人 quadra の 2 階席にあがりパシャパシャと写真を撮っていました（何をやっているんだか...）。Império

の Bateria は審査員すべて 10 点満点、quadra に集まっている bateria 陣は、まるで喧嘩にも見えかねないような大盛り上がりしています。さて、そろそろ結果が決まるぞと思い、テレビの前に戻ったのですが...。(ん???)みんながみんな、ただならぬ感情を露にしているではないですか...。(あら???)僕のペアの Katia は泣いているじゃないですか...。(えっ...何...どうしたの...???)と、啞然。どうやらチャンピオンが決まったらしいんです(細かく説明すると、Vai Vai の「Bateria」も審査員すべて 10 点満点で、結果的にすべての項目の合計が同点だったのですが、その場合に「Evolução」の評価が escola の優劣を決めることになっており、その項目が上となった Império が優勝したわけです)。そして、情けなくも、意気揚々タルンルン写真を撮っていて、この最高の瞬間に乗り遅れてしまった...わけです(泣)

まあ、そんなことはさて置き、とにかく言い尽くせぬほどの喜びを味わいました。そして 2 年連続のチャンピオン、この場にいられて、この comunidade の Mestre Sala という立場にいられて本当に幸せでした。

ブラジルのメディア

チャンピオンが決まった瞬間から一仕事です。文字通り「祝杯の旗」をあげなければなりません。そして、一度 GLOBO の中継のど真ん中にいてしまったからでしょうか。各テレビ局、ラジオ局、新聞社、雑誌の出版社などありとあらゆるメディアのターゲットに。ただでさえ、まだボ語が下手くそでインタビューとか勘弁してほしいのに、quadra 内がうるさくって全然聞き取れず、自分の名前を聞かれたただけなのに、日本の escola の名前を聞かれたと思い「Liberdade!」って叫んでしまったり、年齢(idade)聞かれて、馬鹿みたいに「Tóquio!」って答えてしまったりほんと散々でした。言い訳をすれば出身 cidade(都市・町)と聞き間違えただけなんですけれど、今でも働いている日本語学校の子も達はこのネタでからかわれています...。とにかく、インタビューに慣れてきたころには事務的にちゃっちゃかしゃべりましたが、どうやらメディアは、自分が昨年来たばかりの日本人であること、日本にも escola があること、日本では samba をビデオで学んだというエピソード、これらに興味を持って殺到していたようです。翌日も朝から GLOBO の番組出演、昼も他のテレビ局の収録、家に帰れば、門の前に取材人が...。どこで番号を手に入れたのかは知りませんが、携帯電話も一日中なりっぱなし。São Paulo の新聞社全紙に出ているのを見たときは、我ながら正直ひきました。好きな samba をしていただけですし、自分の力だけでは何も出来なかったわけですから。周囲が騒ぐのも、一時的なものだろうと思っていましたが、とにかくメディアの影響って怖いですね。samba に全く興味のない人も自分のことを知っているし、Rio de Janeiro も含め、いまや遠い遠い Amazonas の人も... (と、現地の知人が言っていました)

DESFILE CAMPEÃ

desfile campeã(チャンピオン・パレード)はお祭りのようなもの。会場は sambódromo ですが、本番のような緊張感は全くありません。alegoria の上の destaque も普通の ala の人が乗っていたり、baiana の人が bateria やっていたり、なんだかメチャメチャです。Império はチャンピオンなので、順番は最後の最後。トロフィーを受賞し、これから始まるというときには朝方になっていました。全く寝ていなくて、スタートする前からフラフラ。パレード中も妙に息が切れるし、朝方であたり一面が白くって、なんだか頭の中がフワリ...。それに加え、sambódromo の後半が左右・前後ともに対照的で単調なものだから「あれ?どっちが前??」なんて迷う瞬間があっ(これは笑えません...)。しょうもないなと思いつつ、心底楽しんでできました。



チャンピオンパレードの後は、次のシーズンまで bateria など一部を除いて escola は完全にストップしますが、選抜の bateria、puxador、passista、そして自分の立場の場合は、イベントなどで動いたりしています。例えば、「国際人種差別撤廃デー(3月21日)」には、São Paulo 市役所近くの記念式に招待されて関係者と交流をしてきました。他にも外交企業のパーティーでショーをしましたが、これからもそういったイベントに携わることが何度かありそうです。実感としては、見せる相手と共演者がブラジル人という以外は、日本でしていたステージ営業のようです。

ではでは、次回は「M.S./P.B.」というテーマで記事を書きたいと思います。 翼